

33

岡山県

組合員へ総合的な
サポートを目指して
～職員の営農知識の
向上に向けて～

J A晴れの国岡山

秋山 原権

<あきやま もとのり>

組合員へ総合的なサポートを 目指して

職員の営農知識の向上に向けて

JA晴れの国岡山 津山支店 秋山 原権

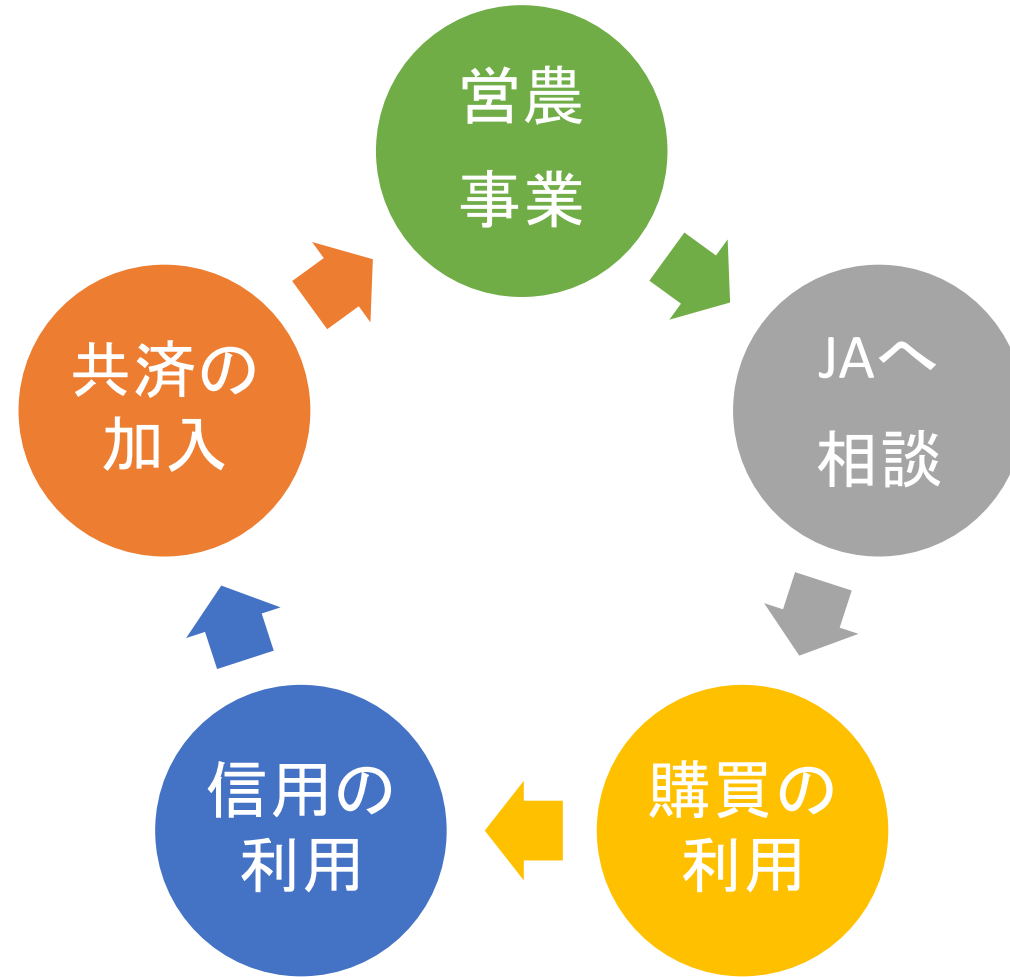
I .JAのあるべき姿

農家の営農と生活を守りより高めることなど、よりよい地域社会を築くことを目的としている組織だと考えます。つまり農業協同組合という組織には農業・食料という分野がなくてはならないものであるといえます。

またJA職員一人一人も出資者・事業利用者・運営参画者であるため、農業という事業において知識の習得及び組合員の農家の皆さんを総合的にサポートしていく必要性があります。特に過疎地域など、高齢化が進み一人世帯も増加している近年、JAがその拠り所となり組合員と密接な関係を持っていければ、協同組合の目指す形が出来ていくと思います。

I.JAのあるべき姿

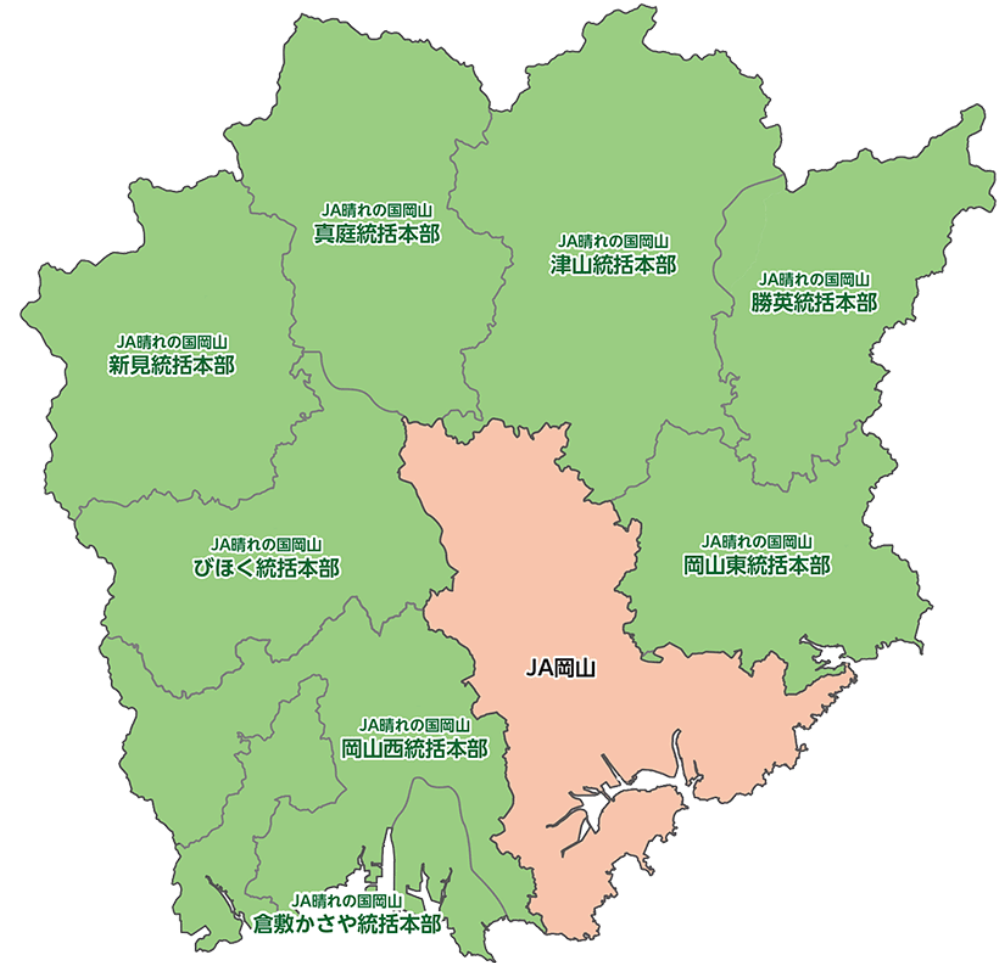
(目指すべき循環サイクル)



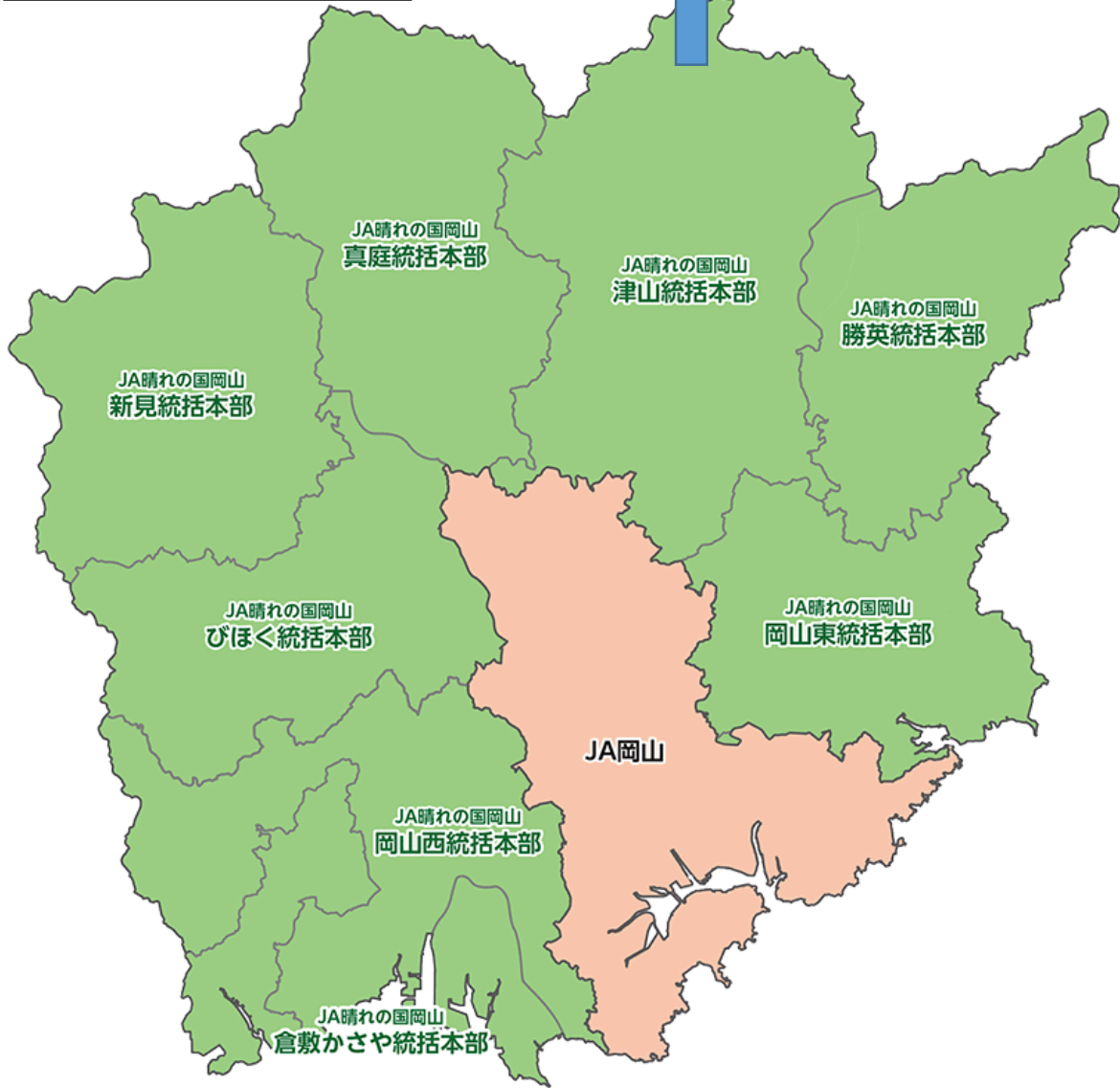
Ⅱ.現状と分析

1.JA晴れの国岡山(津山統括)の概況

- JA晴れの国岡山は令和2年4月1日に県下8JAが合併し、3年が経過しました。岡山県の中心部分(JA岡山)を除くドーナツ状に近い形になっており、8つの統括本部があります。
- 津山統括としては津山中心部に人口が集中しておりますがそれ以外は農村部が多く、過疎化・限界集落・一人暮らしの高齢者世帯が多くなっています。
- 主な生産物は米・ぶどう・きゅうり・アスパラガス等があります。
- 中山間地を中心に、自然環境に対応した農業を行う地域です。



JA晴れの国岡山



管轄内人口	1,098,391人
管轄内世帯数	488,708人

津山統括



津山統括は晴れの国岡山合併以前より、**経済事業の赤字削減のため事業改革をすすめて**いました。
そして、支店を金融特化店舗として運営することを踏まえ、支店購買については、JA-CATという資材店に集約しました。

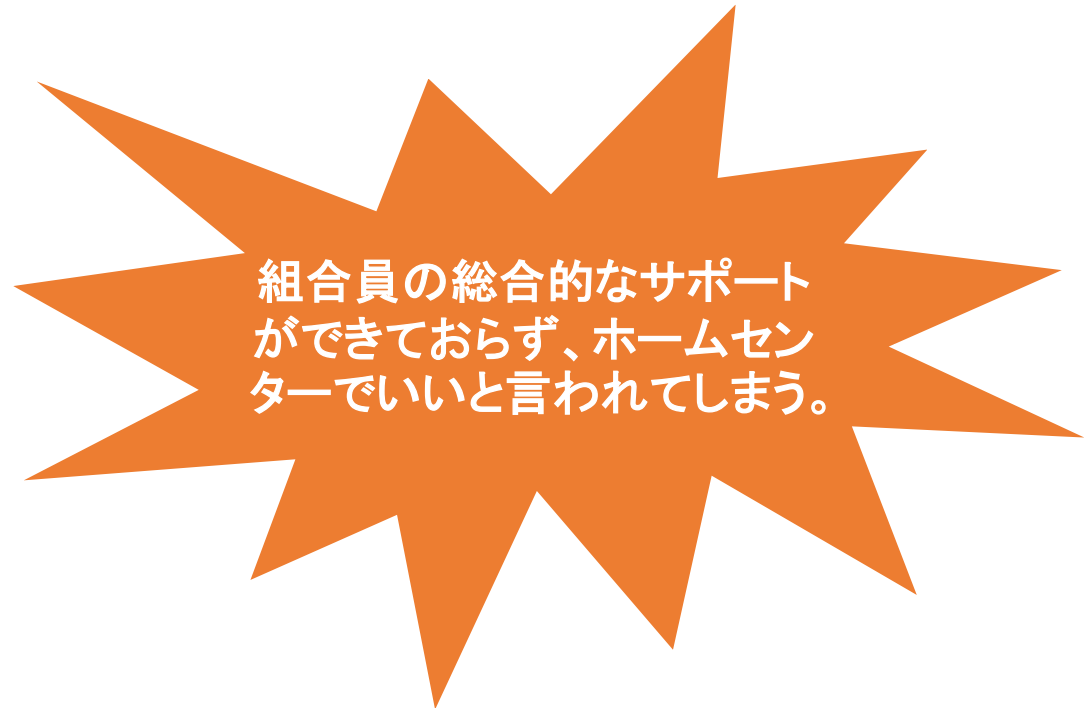
3. SWOT分析

	プラス要因	マイナス要因
	強み	弱み
内部環境分析	地域密着 総合事業 JAのブランド力 顔が見える安心感	職員の知識不足・モチベーションの差が大きい 農村地域の高齢化 JAばなれ 離職率の高さ 金融依存体質 信用共済・営農の横断的なつながりの欠如
	機会	脅威
外部環境分析	スマート農業 SNSの普及 新規就農 食の安心安全 農家の大型化・集約化	少子高齢化 JAばなれ 低金利時代 農業資材等の高騰 ネット保険 米の消費量減少 コロナ

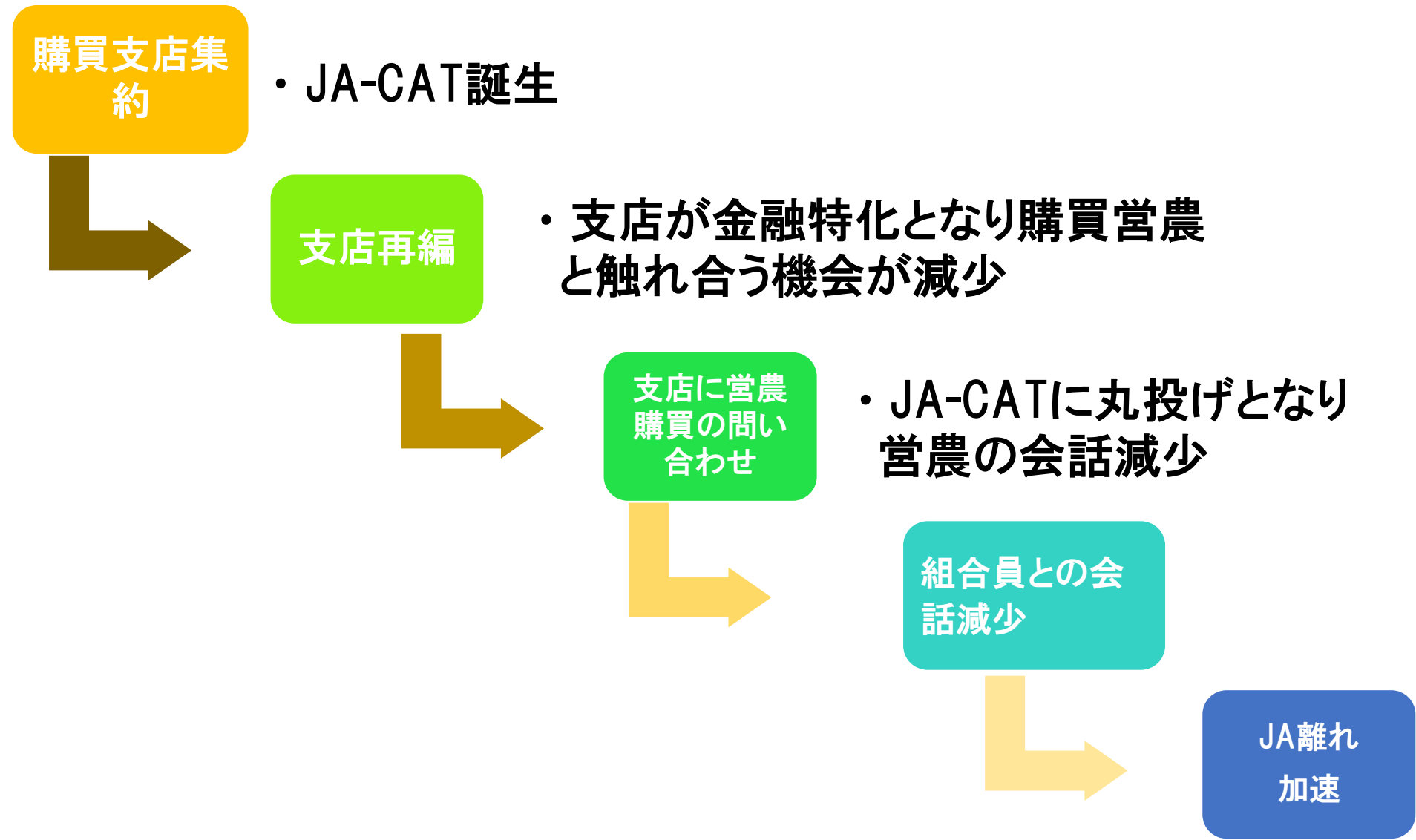
4.分析結果

・総合事業が強みとしてでていますが、弱みとして営農の横断的な繋がりの欠如もあり、矛盾をはらみ、実際には総合事業としての強みを生かしきれていないと言える。

・スマート農業などがあるものの、農村地の高齢化やJA離れに対応できてない。



Ⅲ.課題(津山)



1.課題の整理

①JAの強みである「顔が見える安心感」をJA職員同士で醸成する。

信用共済は同一店舗であり会話が可能だが、営農(JA-CAT・営農センター)などは顔がわからないため頼みにくい。

②総合事業が強みであるが、金融部門でしか仕事していない職員の増加により、営農のことがわからず組合員から、他の金融機関と変わらないと感じられる。結果としてJA離れが加速する。(特に若手職員に顕著)

③JA店舗に相談にすればすべて終わると思っても、金融のみが完了し営農経済部門は手続できておらず、後日クレームに繋がるが多くなった。

④組合員との会話も金融一辺倒となり、また推進に来たのかと構えられる。

⑤農家の集約化・大型化によるチャンスがあっても、営農部門のみで情報伝達が終わっている。



2.目指すべき方向性

・職員一人一人が営農の窓口化

・農業の法人化による信用共済の提案

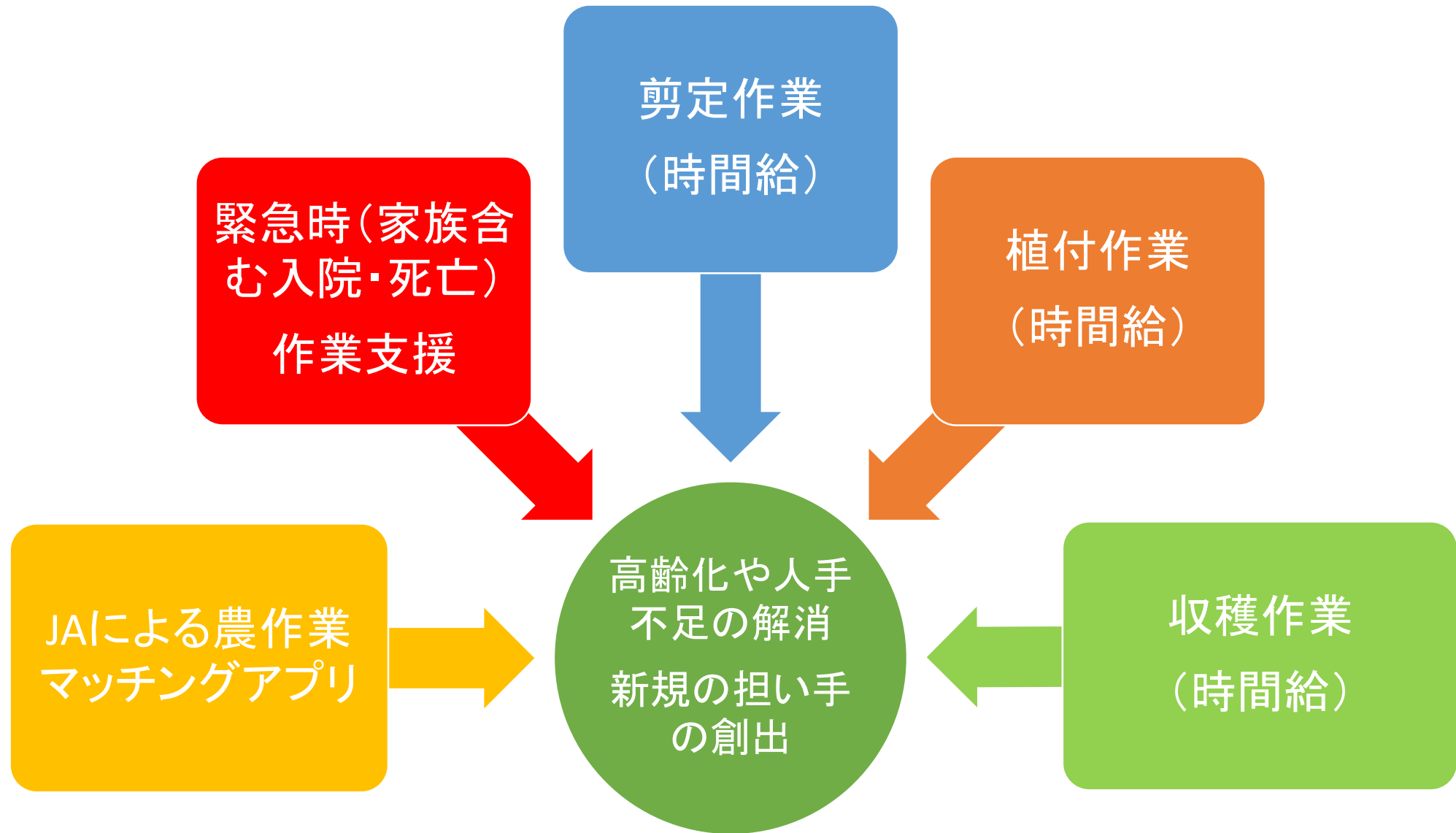
IV.具体的な解決策の提案

①営農指導研修会

農繁期で忙しくなる前の3月に、職員向けの研修会の開催。

- ・津山地区の栽培推奨品目の確認 (例)水稲品種・ぶどう品種の傾向を聞かれる
- ・廃棄プラ・廃棄農薬の日の確認 (例)組合員からの問い合わせが多い
- ・栽培の流れや農薬散布・収穫時期の確認 (例)繁忙期が分かっておらず、忙しい時期に行き、注意を受けた。
- ・農家の収入時期の把握 (例)収入がある時期まで待ってと言われる
- ・相続時の水田・畑に関する手続・連絡先の確認 (例)信用共済の口座変更などはしたが、経済の決済口座の相続手続が出来ておらず、相続でJAに行ったのに「何故経済のことを教えてくれないのか」と注意を受ける。

②農業の作業委託



注・農家への平等性をきすため農家から個人への賃金支払い

V.最後に

JAという巨大な組織を繁栄させていくには農業事業が大きな役割を担っています。順調な経営が出来ているJAほど、農業への意識が高いのは事実です。

ですが、自JA(津山統括)はそうではありません。金融依存の企業となっています。これでは他の金融機関と同じであり、特色が薄れキャッシュレスの時代の波に消えていくと思います。そうならないために、農業協同組合という組織の名前の意味を再度確認し、「農業」のために集まり出来た組織なのだから「農業」について改めて勉強し特色を取り戻す必要があると考えます。

そのためには職員一人一人が少しでも営農の知識の習得・行動が出来るようにしていかなければならないと思います。そのきっかけとして、ここで提案させていただいた営農指導研修会を利用できれば、組合員との会話も増え、JAに相談すれば様々なことが解決できるという感覚を与え、真の強みとして「組合員への総合的なサポート」が出来るのではないかと考えます。そうすれば今起きているJA離れの歯止めになることが出来ると思います。